

平成 22 年度 教師海外研修（研修国：ウガンダ共和国）実践報告書

1. タイトル： 世界の人とつながろう！
2. 氏名 ： 南 由希子
3. 学校名（担当教科）： 加賀市立 湖北小学校
4. 実践教科（時間数）： 総合的な学習の時間（9時間）
5. 対象生徒・学年（人数）： 6年生（25人）
6. カリキュラム

(1) 実践の目的

- ・ ウガンダに住む人々やその生活、文化について知る。
- ・ ウガンダと日本との共通点や相違点に気づき、それぞれの良さを認める。
- ・ ウガンダと日本のつながりを知り、世界のいろんな国々にも興味を持つ。
- ・ 協力隊の方々の活動や考え方を知ることによって、本当の国際協力とは何か、自分たちにできることは何かを考える。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時間目 テーマ：わたしたちは地球人 ねらい：世界の現状・人々や文化等に関心を持つ。	①アフリカ中心の世界地図を見て、自分たちの見慣れている世界地図との違いを考える。 ②知っている世界の国名を書き出す。 ③「世界がもし100人の村だったら」の内容をもとに、世界の現状と自分たちの生活を比較して考える。	・アフリカ中心の世界地図 ・日本中心の世界地図 ・プレゼン資料
2～3 時間目 テーマ：ウガンダって どんなところ？ ねらい：ウガンダの位置・気候・文化などについて知る。	①ウガンダの基本的な情報を知り、どんな国かを想像する。 ②ウガンダに関する写真や資料から、どんな国なのかを知る。	・地図帳・地球儀 ・プレゼン資料 ・ウガンダのお金 ・マトケ実物（アフリカのバナナ） ・ワークシート
4～5 時間目 テーマ：ウガンダの食文化を体験しよう。 ねらい：食を通じてウガンダを身近に感じることができる。	①マトケチップスを作る。 ②食べてみてどうだったかを話し合う。	・生のマトケ ・サラダ油 ・調理器具 ・ワークシート

<p>6 時間目 (本時)</p> <p>テーマ：ウガンダの子どもたち</p> <p>ねらい：ウガンダの子ども達と自分たちの共通点、相違点に気づく</p>	<p>① 小学校の様子や子どもたちの生活について分かったことを話し合う。</p> <p>② 自分たちの生活と同じところ、違うところを見つける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・ビデオ ・児童のアンケート ・ワークシート
<p>7～8 時間目</p> <p>テーマ：ウガンダの人々の生活</p> <p>ねらい：ウガンダの人々の生活と自分たちの生活との共通点・相違点に気づく。</p>	<p>①ウガンダの人々の生活の様子を知る。</p> <p>②自分たちの生活と共通点・相違点を見つける。</p> <p>③ ウガンダの人々の抱える問題について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真 ・プレゼン資料
<p>9 時間目</p> <p>テーマ：国際協力って何だろう？</p> <p>ねらい：ウガンダで活躍する日本人について知り、支援のあり方について考える。</p>	<p>①協力隊の方々の具体的な仕事について知る。</p> <p>② 協力隊の方の思いや考え方について知る。</p> <p>③ 支援のあり方について考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼン資料 ・写真 ・インタビュー映像

(3) 本時の学習

テーマ ウガンダの子どもたち

1. ねらい：ウガンダの学校の様子から、自分達との共通点や相違点に気づく。
2. 対象：6年生25人
3. 時間：1時間
4. 展開：(総時数9時間扱いの本時は6時間目)

	学習活動	準備物									
導入	1. 歓迎されたビデオを見る。 2. 学校クイズをする。	・ビデオ ・プレゼン資料									
展開	3. 小学校の様子について、読み取れることを話し合う。 ＜ウガンダの子どもたちについて 考えよう＞	・写真資料（グループ1枚） ・付箋 ・付箋を貼る画用紙									
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>似ているところ</th> <th>違うところ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・黒板がある ・制服を着ている ・給食がある</td> <td>・一つの机に沢山の人が座っている ・髪が短い</td> </tr> </tbody> </table>	似ているところ	違うところ	・黒板がある ・制服を着ている ・給食がある	・一つの机に沢山の人が座っている ・髪が短い						
	似ているところ	違うところ									
	・黒板がある ・制服を着ている ・給食がある	・一つの机に沢山の人が座っている ・髪が短い									
4. ウガンダの子ども達へのアンケートから、思いや願いを知る。											
<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th><u>大切なものやこと</u></th> <th><u>将来の夢</u></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1位 勉強</td> <td>1位 医者</td> </tr> <tr> <td>2位 家族</td> <td>2位 先生</td> </tr> <tr> <td>3位 友達</td> <td>3位 看護師</td> </tr> <tr> <td>4位 命</td> <td>4位 その他</td> </tr> </tbody> </table>	<u>大切なものやこと</u>	<u>将来の夢</u>	1位 勉強	1位 医者	2位 家族	2位 先生	3位 友達	3位 看護師	4位 命	4位 その他	
<u>大切なものやこと</u>	<u>将来の夢</u>										
1位 勉強	1位 医者										
2位 家族	2位 先生										
3位 友達	3位 看護師										
4位 命	4位 その他										
まとめ	5. ウガンダの子ども達について分かったことや思ったことをまとめよう。	・ワークシート									

7. 授業の詳細

1 時間目 テーマ：わたしたちは地球人

導入では、ウガンダで購入したアフリカ中心の世界地図と日本の世界地図を提示し、違いをとらえさせた。その後、世界の国々の名前をグループごとに出し合い、付箋に書いて画用紙に貼っていった。サッカーのワールドカップが開催後ということもあり、アフリカのサッカー強豪国の名前も見られた。

展開の資料として、『もし世界が100人の村だったら』（池田香代子&マガジンハウス編）の内容をもとにした。この本は、世界を100人の村に例え、世界の様子を数字で分かりやすく表している。児童が少しでも身近に感じられるよう、クラスの人数25人に合わせて数字を変え、世界の現状と自分達の生活を比較させたいと考えた。

授業では、クイズ形式で世界の教育問題や食糧不足、戦争などの問題に触れることで、自分たちの生活が当たり前ではないことに改めて気づくことができた。そして、少しでも世界の国々やそこで暮らす人々に目を向けて考えていくきっかけとなった。

2～3 時間目 テーマ：ウガンダってどんなところ？

最初に児童のウガンダに対するイメージを聞いたところ、以下のような意見が出された。

<勉強する前のウガンダ共和国の印象>

肌が黒い人が住んでいる 裸で生活 走るのが速そう
暑そう 動物が沢山いそう 砂漠 面積が広い 人口が少ない
野蛮 貧乏 戦争をしていそう 困っている人が多そう

その後、「ウガンダのことをもっと知ろう！」と、プレゼンを見せた。初めて見るウガンダの町や人々の様子に驚いていた。前時の学習で、貧困や飢餓、戦争といったイメージを持っていたようだが、想像していたより幸せそうな国だという意見が多かった。

<授業後の感想>

食べ物（特に果物）が多い おいしそう
バナナが多い バナナが緑色 マトケが大きくて硬い
バナナばかり食べて飽きないのか
思っていたより暑くない 一日の気温の差が大きくて大変だ
みんな髪が短くて男の子と女の子の見分けがつかない
道に信号が少ない 車の渋滞で事故が起こりそう
思ったより建物が建っていた
安いものが多い
日本のものがたくさんあってうれしい 日本車が多い
貧しそうなのに、写真の人たちは幸せそう
意外に楽しそうな国 自由そうな国 平和な感じ 意外と住みやすそう
知恵を出し合って生活している エコな生活をしている
貧しい人と裕福な人がいる

最後にマトケ（現地のバナナ）を見せた。日本のバナナよりも青くて硬いことにみんな

驚いていた。マトケが主食として食べられていることを知ると、食べてみたいという声が挙がった。そこで、次時はマトケ料理を作ることになった。

4～5時間目 テーマ：ウガンダの食文化を体験しよう

簡単にできるマトケチップスを作った。作り方は次の通りである。

- ①マトケを半分に切って皮を剥く。
(硬いので、皮がなかなか剥けない。包丁で筋を入れるとよい。)
- ②マトケの身を薄切りにする。
- ③低温の油でじっくり揚げる。
- ④高温の油でさっと揚げる

日本のバナナと大きさやにおいが違うことに驚いていた。しかし、味はとても好評で、普段バナナが嫌いな子も喜んで食べていた。

<マトケチップスの感想>

見かけ 大きい 青い

におい 生だといちじくみたい 特にない 青くさい 芋のにおい

感触 ヌメヌメしていた 大きい 皮が硬くてむくのが大変

味 ふつうのポテトチップスみたいでおいしい 塩をかけたら、なおおいしい
想像していたよりもおいしい おいしくもまずくもない こうばしい

6時間目 (本時) テーマ：ウガンダの子どもたち

導入として、ナチレベ小学校に行ったときに歓迎されたビデオを見せた。門のところから子ども達が一行に並んで歌で出迎えてくれ、とても感動したことを伝えた。

今日は「ウガンダの子どもたちについて考えよう」と提示し、私が現地の学校を見て驚いたことを学校クイズにした。特に、男子はマトケの葉で作った手作りのサッカーボールに興味を持ち、休み時間にはリフティングに挑戦する姿が見られた。

第1問 サッカーボール



第2問 サッカーのゴール



第3問 チャイム



第4問 雨水を貯めるタンク



第5問 トイレ



展開では、フォトランゲージの手法を使った。グループごとに1枚の写真を見て、自分の学校生活と似ているところ、違うところを考えて、付箋に書いたものを貼っていった。各グループから出た意見は次の通りである。

①運動場



<似ているところ>
サッカーをしている 仲がよさそう
<違うところ>
裸足やサンダルの人がいる 私服 みんな坊主頭
校舎が1階建て レンガ造り 窓ガラスがない

②教室



<似ているところ>
黒板がある かけ算が貼ってある 授業の内容
ピアノをしている 「きらきら星」の演奏
<違うところ>
全員坊主頭 共同でピアノを使っている
電気がない 暖房やクーラーがない 時計がない
天井が丸見え

③教室



<似ているところ>
ノート 黒板 制服 手を挙げている
<違うところ>
3人で1つの机 窮屈そう 制服じゃない人がある
1つの教室にたくさんの子どもがいる
机の並びがぐちゃぐちゃ

④給食



<似ているところ>
給食がある フォークやお皿 机の上で食べる
<違うところ>
皿がバケツ 食器が一人一人違う 小皿に分けられていない
髪がチリチリ 肌の色

⑤給食



<似ているところ>

服の模様 靴を履いている 給食を食べる

<違うところ>

裸足 男と女の見分けがつかない 髪の毛が短い

みんな似たような顔 給食を外で食べている

給食をコップに入れている

⑥ドミトリー (寮)



<似ているところ>

二段ベット

<違うところ>

掛け布団と敷布団の絵柄が違う 枕がない

学校で寝泊りすること 天井に物が掛けてある

天井が丸見え

1枚の写真から読み取ったことを各グループの代表が発表し、それについて補足をしていった。②では学用品が買えない子もいること、③では青年海外協力隊の方がボランティアで教えていること、⑤ではお金を払わない子は給食が食べられないこと、⑥では学校の時間割や子どもたちの仕事について説明した。

そんなウガンダの子どもたちに聞いた「大切なものやこと」のアンケート結果を発表した。「家族」「友達」「命」は、クラスの児童のアンケート結果と同じだが、1位が「勉強」というのが予想外であった。自分の生活を豊かにするために、夢をかなえるために、勉強をがんばっているウガンダの子どもたち。しかし、小学校を卒業できるのは50%しかないという現実を伝えた。

また、彼らの将来の夢の1位がダントツで医者、3位が看護師になることであり、その理由については次時で考えることにした。

<授業後の感想>

・給食が少なくてかわいそうでした。大切なことが勉強というのにびっくりしました。ぼくたちは、給食がたくさん食べられたり、ちゃんと教科書がもらえたりするので幸せだなあと思います。

・自分達との違いがいっぱいあって驚きました。朝早く起きて勉強をいっぱいして立派だと思います。一番大切なことは「勉強できること」というのを聞いて、感動しました。勉強って大事だなと改めて思いました。

・今、自分達が当たり前だと思っていることをありがたいと思っているのがえらいな一と思えました。勉強をやらされているじゃなくてやらせてもらっているという考え方は、見習わないといけません。恵まれない環境でも一生けん命いろいろなことに頑張っているのがすごいと思えました。

・日本と違って、給食代が払えなかったり、鉛筆が買えなかったりするのに、みんな明るくてびっくりした。遊び道具も自分達で作っているところがすごい。

7～8時間目 テーマ：ウガンダの人々の生活

導入には、前時の感想を使い、今日の課題につなげた。

・自分達が勉強できることに感謝→日本には職業を選択できる自由がある。

・日本に住む私達が幸せな環境にいることに感謝

→ウガンダの人たちは不幸なのかな？

・あまり生活を苦に感じていないようだ

物やお金がないのに明るい →ウガンダの人たちはどうして明るいのか？

今日の課題を「ウガンダの人々の生活について考えよう」と提示し、ウガンダ生活クイズを行った。マトケの葉で作った屋根、電気やガスのない台所、町で売られているポリ容器、水浴びするところ、ゴンベ病院の外観の写真をクイズにした。

展開では、今回もフォトランゲージの手法を使った。各グループに写真を一枚渡し、読み取ったことを発表させた。

①市場



②家族



③井戸



④水運び



⑤病院



⑥チャイルドケアセンター



②では年上の子が年下の子をお世話することや年上の人を大事にすること、③では水道がないことや日本の協力で井戸を作ったこと、④では水運びが子どもの仕事であることを補足説明した。

また、20ℓのポリ容器を使って水運びにチャレンジさせた。1つだけ持って教室を1周するのも苦勞し、この仕事の大変さを少しは理解することができた。

⑥のチャイルドケアセンターに来る子どもたちの家庭環境を聞いて、ショックを受けていた。それでも明るく振舞っている様子に驚き、自分達を書いたカードを持っていることを喜んでた。特に、カードを受け取った子どもたちからのビデオメッセージに大喜びだった。

最後に、課題であったウガンダの人々の笑顔について考えさせた。日本と比べてウガンダの人々は、物質的には恵まれていないけれども果たして不幸なのだろうか、どうしてこんなに明るくいられるのだろうか？と問いかけた。真剣にその答えを考えていたが、とても難しかったようだ。

<どうして笑顔でいられるのだろうか>

- ・あんまり気にしないから。
- ・自分たちの生活を気に入っているから。
- ・勉強できること、生きていることがうれしいし、笑顔でいられるんじゃないかな？
- ・希望を持って生きているから。
- ・みんなに支えられて生きているから。みんなが仲間だから。
- ・よく分からない。でも、ぼくたちよりも何倍も強い心を持っていると思う。
- ・病気で死ぬ確率が高いから、生きていることに喜びを感じているんだと思う。
- ・決して裕福な暮らしではないと思う。けれど、その環境の中でも一日一日を一生けん命に生きているからこそ、幸せそうに笑えるんだと思った。逆に日本は物があふれていて、物に頼ってしまっている。多くの日本人は、物があっても自分は幸せじゃないと思っているんじゃないだろうか。

9時間目 テーマ：国際協力ってどんなこと？

導入では、前時の感想を発表してもらった。そこで出てきた意見は、ウガンダの人たちは、「おおらかで心が豊かであること」、「家族や仲間とつながりが深いこと」、「知恵を出し合って工夫したり、自分で楽しみを見つけたりすることができること」、「希望を持って一生懸命生きていること」であった。それに対して、「私たちは物が豊かにあることに慣れているけれど、果たして幸せなのだろうか？」という疑問も出された。

しかし、ウガンダは発展途上国であり、様々な問題を抱えていることを思い出させた。そのウガンダの人々のために活動している日本人がいて聞いて、子どもたちは驚いていた。現地でお会いした隊員の中で特に4人の方々の仕事内容と、ウガンダへの思いについて説明した。

中でも、ネリカ米の普及に努めている坪井専門家の言葉を紹介した。

ウガンダの人がみんな普通にお米を食べられるようになるといい。そうすれば、アフリカの食糧不足も解決する。でも、みんなに米作りを押し付けるつもりはない。例えば、雨が降らなかつたら稲は育たない。そのためにマトケや豆などを育てることも必要だ。

50年後、100年後にウガンダの家庭で「お父さん、お米っておいしいね。これは日本人が作り方を教えてくれたんだよ。」と言われるのが夢だ。

どの隊員もウガンダの将来を考えている、自分たちが帰国した後も続けていける支援を考えていることに感動している子が多かった。



最後に、今回の海外研修を通して感じたことを私のメッセージとして伝えた。

貧しい国にお金や物をあげることもすばらしいことです。でも、もっと大切なことは、その国の将来を考えると、それは世界の未来を考えることになるんじゃないかな。

まずは、隣の人を知ること、日本のことを知ること、そして世界のことを知ることからはじめよう。それが世界とつながる第一歩です。

みんなには、ウガンダにもう友達があります。「どうもありがとう」って日本語で言ってくれた子、「マイフレンド」って言ってくれた子、カードを受け取った子が日本のみんなのことを思っています。

<授業後の感想>

- ・ウガンダの人たちはよく笑う、楽しそう。お金がなくて、物も買えない人もいるけれど、生きる強さを持っている。そんな人々を尊敬しています。
- ・たとえ国が違って同じ人なんだ、生きることって素晴らしいと思いました。ウガンダの子どもたちに「希望を持ってがんばれ」と伝えたいです。
- ・この勉強の中で、特に孤児の子どもたちの写真を見ていて本当につらかった。だから、隊員の鷲頭さんには、特にこれからもがんばってもらいたいです。
- ・先生のプレゼンを見て、言葉が違って環境が違って人ってつながることができるんだなと思いました。
- ・最初はウガンダにあまり良いイメージがなかったけど、ウガンダのことを少しわかった気がする。ウガンダの人たちは、心が豊かで前向きで明るい人たちなんだなと思った。そしてウガンダで活躍する日本人は、みんなすごく優しく、見知らぬ国で活動する勇気をもってすごいなと思った。世界の人々のことをもっと知りたくなってきた。
- ・ウガンダの人のため、国のため、将来のために働く日本人がいることが分かった。これからウガンダがもっと発展したらいいと思う。
- ・私は最初、ウガンダは貧しい国だと思ったけど、今は笑顔がたえない国で素敵だなと思っています。心を開けば友達になれるところが素敵です。坪井さんがお米を開発したことで、ウガンダの人々も喜んでいてと思います。
- ・今までは他の国の問題を他人ごとだと思ってきたけれど、自分から何かしたいと思った。たくさんの人を笑顔にできる人間になりたい。

8. 成果と課題

- ・私が自分の目で見えてきたことを語るからこそ説得力があるし、子どもたちの心にも響いたようだ。しかし、自分の選ぶ課題や画像によって、子どもたちの考え方が左右されてしまう。本当に自分の伝えたいことが正しいのか、誤った情報ではなかったのかと不安である。
- ・ビデオや写真には強烈なインパクトがあり、とても有効だった。しかし、その準備や授業の中で使うタイミングなどを考えるのに苦労した。
- ・ウガンダについて勉強不足であり、またどのような実践授業にしようかと深く考えずに研修に行ってしまったため、帰国してから必要な資料が足りず、実践授業で大変苦労

することとなった。(協力隊の方々の活動に対する思いや日本の子どもたちへのメッセージをビデオに撮ってくればよかった。) 苦しんでいたときに、これまで研修に行かれた先生方のアドバイスや報告書がとても参考になった。

・6年生で取り組むには、社会との関連もあるので時期的には3学期がいいと思う。しかし、実践報告に間に合わせるには時間がないので難しい。

9. 資料や参考文献など

- ・「もし世界が100人の村だったら」(池田香代子&マガジンハウス編)
- ・平成20年度JICA北陸教師海外研修報告書
 - 田中雄輝 「世界の人とつながろう～タンザニアと私達を見つめて～」
 - 荒木佳子 「Jambor! から広がる世界」